

ホームページへの掲載	
済	12月5日 掲載予定

岐阜県立可児工業高等学校

学校長 豊吉 守

学校住所 可児市中恵土2358-1 電話0574-62-1185

1 会議の名称 学校評議員による会議（第2回）

2 会議の構成

委員	安達 邦満	可児市中恵土自治会連合会長
	石原 好弘	可児工業高等学校同窓会監査 （石原・大島設計事務所代表）
	佐藤 千枝	可児市青少年育成推進員
	玉田 吉孝	リンナイ精機取締役
	水野 妙子	多治見法人会可児支部女性部会長（欠席）

（委員名は五十音順）

学校側	豊吉 守	校長
	長谷川清志	教頭
	小森 敏男	事務長
	古田 哲	教務部長
	兼松 竹司	生徒指導部長
	鈴木 宏	進路指導部長
	大山 好武	工業科主任

3 会議の目的

学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、本校教育の一層の改善・充実に資する。

4 会議の開催 平成20年11月15日（土） 11:00～13:00
於：可児工業高等学校 校長室
委員4人、学校側7人が出席

- 5 会議の概要 今回は、可児工祭を見学していただいた後、学校の近況報告をし、評議員の方々から可児工祭や行事全般についての感想・意見、そして本校のあり方や、地域が求める工業高校についてなど、最近の話題等を含め意見をいただいた。また、PTAの方々企画されている「食物バザー」の試食をしてもらい和やかな雰囲気の中で忌憚のない意見をいただくことができました。

(1) 可児工祭・学校行事について

- 意見1 工業高校らしい学校祭であった、評価すべき状況だと思います。ものづくりの原点であると思います。
- 意見2 大変気持ちのいい挨拶をしてくれる生徒さんばかりですがすがしい気分であった、会社組織でもこのようであってほしいと強く思いました。
- 意見3 確かに、とりくんでいる生徒と、そうでない生徒が見られるがほとんどの生徒さんが取り組んでおられる姿が大変よかったです。
- 意見4 生徒自身で発表内容をアピールする姿勢が大変良かった。又、外部の人たちにしっかりとした態度に感動しました。社会に有益な人づくりをしていただいていることに感激しました。
- 意見5 ものづくりの段階でプロセスがたのしかったという感想が聞けて大変良かった。日頃の授業以外の楽しさがあったという感想も聞けることができ良かったです。
- 意見6 スウィングライトの作成及び発表の会場では、外部のお客様の方と一緒に作成している姿が良かった。外部の方の指摘や指導を受けながら又刺激を受けながら取り組んでいる様子が大変良かった。
- 人とのコミュニケーションが大事である事がよくわかった場面でした。生徒さんがそのことを理解し、外部の人と対応されている姿は可児工業の教育力だと強く感じました。
- 意見7 つくることを喜んでいる高校生の姿がすばらしい・・・

(2) 工業高校のあり方・地域が求める工業高校とは

- 意見1 公民館活動など積極的に参加していただき感謝しています。
- 意見2 地域住民の声をまとめてみますとこうした声が寄せられています。
- *とてもよい挨拶ができている。可児工業高校の定着した姿ではないか
- 地域の方からこうした話をよく伺います。そのたびに可児工業高校の活動の話を様々

な会議等でも話させていただいています。

*一般では声を掛けてもそっぽをむくのが高校生であるが、よく挨拶をしてくれます。

これは学校全体で取り組んでおられる結果ではないか・・・

意見3 MS リーダーズの活躍がすばらしい、時々一緒に活動させてもらっていますが、大変気持のよい姿であると思います。

その他、青少年育成会議の啓発活動にも積極的に参加されておられることに感謝しています。

意見5 工業高校から四年生大学（工業大学）に進学する意味があるのではないのでしょうか、普通科から工業大学への進学より意味があるように思います。

今以上に工業大学への進学指導も、これからの可児工業高校のあり方の一つではないのでしょうか（工業高校の指導者の育成という面で必要ではないか）

(3) 進路の概要について

学校より

3年生の進路状況は134名が就職（全員内定済み）61名が進学（進行中）ですが企業サイドから見て次年度の就職予測についてご意見をお聞かせいただけませんか

意見1 仕事量が激減・・・トヨタの生産量がダウン

1次外注・・・30%ダウン

2次外注・・・50%ダウン

在庫を現金化にする企業が激増している。・・・こうした影響はもう少し先になるのではないか

意見2 サプライムの問題以後輸出がストップ、企業同士で成り行きを見守っている状況である。

意見3 今後の状況を分析しますと、大学文系卒はいらぬというのが本音です。

大学文系への影響は次年度は大きいであろう（ほとんどないのではないかと予測しています）

意見4 ここ2～3年20%～30%の生産力のアップであった工作機械も世界的な調整でダウンであろう、輸出関係が一番の不安要素であると思います。

学校より

そうした中工業高校の進路状況はどのように判断したらよいかお聞かせいただけますか

意見5 まったく影響がないとっては嘘になりますが、工業高校への影響が一番少ないのではないかと思います。しかし来年の春のことは良くなる、悪くなるは読めない部分もある

ので進路対策は来年といわず、今から対策が必要だと思います。

学校より

大変貴重なご意見・情報をいただきありがとうございました。学校といたしましては明日と言わず今日からでも次年度の進路指導に活かしていくつもりです。

本当にありがとうございました。

会議のまとめ

例年、第二回は「可児工祭」の日を選定し、生徒と直接ふれあっていただく事や、日頃の活動の成果を見ていただく機会としてしている。会議では、多くの外来者と接する機会が得られ、生徒が生き生きと活動を展開している姿があったと評価をいただいた。そして、「一生懸命に取り組む」姿勢が見られ、こうした活動を教育活動全般で反映できる事が大切との指摘を受けた。今後も可児工祭を通し生徒の「自己アピール」や「コミュニケーション能力」を身に付ける場としていきたい。

又、これからの工業高校の生き方・あり方、そして地域と可児工業高校との密接な関わりについて素晴らしい評価、あるいは今後のあり方についてのご意見又、社会情勢を含めた最新情報をいただいた事を大切にし、よりよい可児工業高校づくりと、生徒の進路指導にいかし、努力していきたい。

最後に、PTAの役員の皆さんが可児工祭のために二日ばかりで準備してくださいました、焼きそばと、豚汁を、評議員・学校側のみんなでおおいしくいただき、和やかな雰囲気と世間話で会を閉じることができました。あいにくの雨模様の日でしたが多くのお客様をお迎えすることができたのも生徒のがんばりと、地域の皆様方の暖かいご支援のたまものと感謝しています。